

電友会四国連合会報



第 39 号

57. 7

目 次

コミュニケーション考	香川電気通信部長	二
人生の余暇	赤 刎 正	二
電友会四国連合会総会		二
総会における藤田四国電気通信局長ごあいさつ		三
香川電友会総会		三
年金情報		四
昭和五八年度恩給・共済年金 受給者の処遇等に関する陳情書		五
共済年金制度の確保に関する陳情書		六
昭和五十七年度公社に対する要望		六
余 栄		七
共済会だより(六)		七
史跡文化の里めぐり		八
討 報		八
昭和五十七年度電電OB春季軟式庭球大会		八
随 筆		八
猪谷 嘉夫	今西 重信	宇川 政彦
大西 元信	中平 茂一	浜口 徳幸
板東 秀一	後藤 稔	森谷岩太郎
溝淵 宗俊		
表紙のことば		三
川 柳		三
俳 句		三
編集後記		三

コミユニケーション考

香川電気通信部長

上原 清 人



人から「出身は」と良く聞かれる。「九州の鹿児島なんです」とどちらかというと酒席で多いことが多い。あまり呑めないことも

あって「薩摩隼人とは思えませんね。言葉の訛りもないし」そう云って下さるのは嬉しいが、本当は標準語をきれいに話しているわけではない。鹿児島弁のわかる方なら特に、この言葉だかわからない不思議な言葉を話すやっだと思っておられるに違いない。

自分でも、若干被害妄想的な発想だなど思うが、これには訳がある。生れてこの方、言葉について少なくとも三回は非常に苦労しているからだ。最初は、小学三年で福岡県から宮崎県へ疎開した時、二回目は鹿児島から東京へ出た時、次はニューヨークへ行った時である。不思議なもので、どの場合も、はじめのうちは皆の言葉が非常に早口に聞こえるが、慣れてしまうとそうではなくなる。また、苦労と云えば、東京へ出た時、駅で切符を買うにも事前に小声で訛をなくすようトレーニングしてから頼んだことを思い出す。関西の人は堂々とお国訛りで話すのに感心し、文化的背景の違いかなと考えたのもその頃だ。今になって見ると、英語だってそうだが、相手はこちらが思う程気にしているわけでは

ないし、同じ人間同志、顔付きや仕種で意は通じるもの、当時どうしてあんなに気になったのだらうと思う。しかし、かと思つて同じ言葉を話すから十分意が通じているかと云うとそうでないことが多いのも事実だ。待合せで違う所を早とちりして三十分も一時間もいらしたなどの失敗は多い。

今、四国管内の各局は、広報広聴活動の充実、町の電話局づくりに懸命に取り組んでいる。早いとこ地域の人々の声が早口でなく耳に入り、公社の意図するところが十分地域社会に伝わるようになりたいもの。電友会の諸先輩にも是非お力添えをお願いしたいと思う今日この頃である。

人生の余暇

赤 刳 正

人間はみな自分の持ち時間を生きていくようなもので、假に七十五才まで生きるとして、その持ち時間を計算すると六十五万時間になります。しかし、睡眠や食事や通勤時間などを差し引くと、その半分の約三十三万時間が自由時間ということになります。そのうちで、勉強に二万時間そこそこ、働くのが八万時間程度とすると、あとおよそ二十三万時間の余暇が残る勘定になります。

ところで私の場合は、残念ながらこの莫大な余暇の大部分をすでに無駄に空費してしまひ、持ち時間の終局も近い段階にあります。それにしても、老後を如何に有意義なものにするか、これはすべての人の問題であつて、その生きがいを見つけて、いくつになつても心身ともに充実した日々を送りたいのは、誰しもの願ひに違ひないと思います。

死ぬまで青年のごとくあつて、年をとらない最良の方法は、使つてしまつた時間のことを忘れて、残された時間の使いかたを考へていくことだといわれます。そこで私も、日暮れて道遠き感がありますが、せめてこれからは、老人の心訓にあるように、過去にしがみつ়くことなく、まだ社会に役立つことが出来ることと自覚し、若いものの邪魔にならないように陰の力をつくし、死を忘れないで生き生きと生きるように、残された時間を心して使うことにより、自らの人生を最終的に意義あらしめたものと念願しています。

(電友会四国連合会副会長)

電友会四国連合会総会

五月晴れの好天に恵まれた五月二十六日、電友会四国連合会第十一回総会を四国電信電話会館において、役員十一名及び各県の会選出の代議員四十名が出席し、藤田四国電気通信局長、野本四国友愛会長ご臨席のもと定刻十時三十分開会した。先づ物故された方々のご冥福を祈り黙禱を捧げ、泉会長のあいさつのおと、藤田四国電気通信局長からご丁寧なお祝辞をいただき続いて通信局のご好意により「INS」の映画を上映し、参議院議員長田裕二先生の祝電、西村尚次先生のメッセージ、曾我部高知電気通信部長の祝電を披露した後、愛媛県選出代議員篠浦達行氏を議長に選んで次の議案について審議し原案のとおり承認または決定された。

一 昭和五十六年度決算報告(別掲参照)

二 同 会計監査報告

三 会則一部改正

四 昭和五十七年度事業計画(別掲参照)

五 昭和五十七年度収支予算(別掲参照)
引き続き米寿を迎えられた高松市沖永唯男氏、南国市西田綱勝氏に記念品贈呈の披露をし、役員人事については、会計監査久米実氏が二年の任期をすまされて退かれ、後任に西本寿恵一氏が選ばれ、他の役員は全員再任された。このあと懇親会にうつり、岩佐副局長、小森秘書課長もご臨席いただき、通信局幹部と代議員の有効な交歓が行なわれた。極めてご多忙の中を特に時間を割かれてご臨席下さって会を一層盛んにしていただいた通信局幹部の方々に衷心から感謝いたしております。

昭和五十七年度事業計画

電友会四国連合会は、各県の会相互の連携を密にし、会員の生活の安定、福祉の増進をはかり、あわせて電気通信事業に寄与せんとする会の目的達成のため、下記施策の推進をはかるものとする。

一 退職者の現況把握、公社債の消化、その他公社の要請に対し、地域における公社の良き理解者として積極的に協力し、電気通信事業に寄与する。

二 恩給・共済年金については、経営形態の変革或いは制度の統合等により、年金受給者が不利にならないよう強力に関係方面に働きかけるとともに、改訂実施時期を四月一日とすること、また現職公務員の給与改定時期から一年遅れとなっている現状を改正するよう働きかける。

三 扶助料または遺族年金の算定基準額は、恩給・共済年金額の八〇%に改善するよう陳情を続ける。

四 恩給・共済年金受給者に対する老齢福祉年金の併給制限を撤廃するとともに、課税上の高齢者年金特別控除額をさらに引上げ

るよう陳情を続ける。
五 生存者叙勲の範囲拡大につき引き続き電退連を通じ郵政省へ積極的に要請する。
六 電気通信共済会が行う退職者を対象とする各種文化活動等に積極的に協力する。
七 連合会会報の一層の充実をはかる。

昭和五十六年度決算報告

(56. 4. 1 ~ 57. 3. 31)

収入の部		(単位円)	
項 目	金 額	項 目	金 額
繰 越 金	121,646	会 費	304,600
会 員バジ 販売金	159,600	雑 収 入	56,437
合 計	642,283		

昭和五十七年度収支予算

(57. 4. 1 ~ 58. 3. 31)

収入の部	
項 目	金 額
繰 越 金	176,241
会 費	344,000
会員バジ 販売金	51,300
雑 収 入	55,000
合 計	626,541

支出の部	
項 目	金 額
分 担 金	50,000
旅費・交通費	152,470
会員バジ 買入金	114,000
会 議 費	8,640
総会・理事会	3,040
編集委員会	5,600
事 務 費	51,432
通 信 費	26,530
用 品 費	902
印 刷 費	24,000
雑 費	89,500
繰 越 金	176,241
合 計	642,283

(57. 4. 1 ~ 58. 3. 31)

支出の部	
項 目	金 額
分 担 金	60,000
旅費・交通費	168,000
会員バジ 買入金	114,000
会 議 費	31,800
総会・理事会	3,000
編集委員会	28,800
事 務 費	62,000
通 信 費	27,000
用 品 費	7,000
印 刷 費	28,000
雑 費	70,000
予 備 費	120,741
合 計	626,541

電友会四国連合会総会における

藤田四国電気通信局長ごあいさつ(要旨)

四国電気通信局長の藤田でございます。本日は、四国各地から役員並びに代議員の方々がご集りになっておられる年に一度の総会にお招きいただき、ごあいさつを申し述べ、機会を得ましたことを光栄に存じ、感謝申しあげます。

四国連合会も昭和四三年に一五〇名で発足し、現在では約一〇倍にも及び、五二六名(全国約三五、〇〇〇人)の会員を擁していると聞きしております。

会の運営につきましても、年々隆盛の一途をたどられ、充実した組織に発展されたことは、ひとえに会長さんをはじめ、役員の方々の日頃の御努力と会員の皆様方の並々な御精進の賜ものと、深く敬意を表する次第でございます。

さて、電信電話事業は、創業以来一〇〇余年、諸先輩の御努力により、設備の拡大とサービスの改善に努めてまいりました結果全国の加入電話は四、〇〇〇万台、四国では一四〇万台に達し、世界第二位の巨大なネットワークを形成することとなりました。

また、人びとの生活水準は、年々向上しており、その要望はますます高度化、多様化しており、今後は、各種の新電話サービスをはじめとして、データ通信やファクシミリ通信等の非電話係サービスが急テンポで増加して参ります。

これらの便利で多彩なサービスを、より利用しやすく、より安い料金で提供できるシステム、いわゆる高度情報通信システム「INS」の形成が必要であります。

現在、公社では「INS」に必要な超LSI、光ファイバー通信、デジタル技術等については、すでに開発しております。

「INS」を円滑に推進するため、今年から東京の武蔵野、三鷹地域に「INS」のモデルシステムの建設を開始し、昭和六一年までの五年間にわたり技術確認のための試験を行います。

このモデルシステムで得た成果をもとに「INS」を全国的に拡大していくよう計画しております。

昭和六一年度には、各通信局一カ所程度「INS」によるサービスを提供し、昭和六二年度には、県庁所在地まで拡大する予定であります。そして七〇年頃には、「INS」の完成の見通しが得られると考えています。

この「INS」を推進していくにつきまは、地域の方々に公社事業についての理解を深め、地域社会へのコンセンサスづくりをしていく必要があります。そのために、それぞれの地域でご活躍されておられます電友会の皆様には、どうか地域の方々と私どものパイ役となつていただきたいと思ひます。

今後とも一層の御支援、御助力をいただきますようお願いいたします。

最後に、現在、公社では社会との関係を端的に表現する基本精神として「社会の心を公社に、公社の心を社会に」を合言葉として、地域社会に積極的にとけ込んでいくよう心掛けております。

長い間の公社生活でつちかわれた、豊富な知識と経験をお持ちの電友会の皆様から貴重な御意見などがちようだいでできれば幸に存じます。終りにあたりまして、電友会のますますの御発展と、会員の皆様方の御健康と御多幸をお祈り申しあげまして私のごあいさつといたします。

香川電友会総会

五月十四日、夜来の雨もあがり玉藻城内の樹々は一段と緑を濃くしていた。

会場の披雲閣は会員二四〇名におよぶ出席者を迎え、さすがの大広間(一四三畳)もあふれるばかりであった。定刻を少し遅れて十一時開会、冒頭、物故された会員の方々に黙祷を捧げた後、池田会長あいさつに続いて議長に亀山巖氏を選出、議事に入り昭和五十六年度の会務報告、会計諸報告、同監査報告と議事は順調に進んだ。

役員改選については現池田清澄会長が満場一致で再任された。他の役員指名は村尾武雄副会長の辞任に伴い、喜田鎮雄常任幹事を新副会長に、森安明氏を常任幹事に、また会計監査増田鉄雄氏死亡、同監査田淵義信氏の辞任もあり、木野戸繁行氏、横田一男氏の両氏がそれぞれ新役員として会長より指名された。

その他の役員については留任となった。新役員のおいさつに続いて長寿祝が会員一同の祝福裡に米寿の沖永唯男様をはじめ喜寿の七名の方々に贈呈された。ついで参議院議員長田

先生の祝電、同西村先生のメッセージが披露され正午過ぎ総会の一切の議事を無事終了した。

少憩後、懇談会に移り来賓として上原香川電気通信部長、杉本高松電話局長、相原高松電報局長、今井丸電電報電話局長のご参加を得て池田会長あいさつのおと上原香川通信部長から電気通信事業の近況とご丁寧なる祝詞をいただいた。続いて新顧問と新会員各氏の自己紹介に移り懇談に入った。

恒例の「のど自慢」も続出、随所で爆笑の渦が巻き、別れを惜しみながら新緑の玉藻城を後にしたのは四時近くであった。

年金情報

昭和五十七年度共済年金の改善については、五月二十五日、法律第五七号により改定されました。改善の概要はつきのとおりです。

一 実施時期

昭和五十七年五月

二 年金改定等の内容

(一) 俸給年額の引上げによる年金の額の改定

昭和五十六年三月三十一日以前の退職者について、昭和五十六年度の公務員給与の改善内容(平均五・〇%アップ)を基礎として、年金額算定の基礎となつてゐる仮定俸給をつぎのとおり引き上げる。

※ 條年年額 1,280,000円未満 5.5%

〃 1,280,000円以上 4.5%+12,800円

〃 4,622,223円以上 220,800円

〃 5,061,539円以上 -2.6%+352,400円

〃 13,583,847円以上 7.7%なし

(二) 年金の改定増加額の一部支給停止

引上げ後の俸給年額が4,122,400円以上の者に支給する退職年金、減額退職年金又は通算退職年金については、昭和五十八年三月まで増額分の三分の一を停止する。

昭和五八年度恩給・共済年金受給者の処遇等に関する陳情書

恩給・共済年金受給者の処遇改善等につきましては、格別のご配慮にあずかり私ども電電公社関係退職者はひとしくそのご厚志に感謝いたしております。

おかげをもちまして、逐年改善の実があらがり、昭和五十七年度においては相当の改善が図られましたことは、これひとえに関係各位のご尽力によるものと厚くお礼申し上げます。しかしながら、恩給・共済年金受給者の処遇につきましては、本質的な改善すべき多くの問題を残しております。

また、最近財政の調整並びに公的年金制度の統合等の問題が検討されておりますが、特に左記第一に申し述べますとおり慎重に検討を行うとともに、昭和五十八年度国家予算等の編成に当りましては、年来陳情いたしております左記第二の諸事項につきまして改善措置が行われますよう、会員一同の総意に基づき、ここに謹んでお願い申し上げます。

第一 年金財政の調整及び公的年金制度の統合等について

最近関係方面において、公的年金制度の統合等が論議の対象となっておりますが、公的年金制度については、その性格、成立、成長並びに資産の運用等に長い歴史があり、現在

の制度間の差異が生じている実情を十分考慮し、彌縫的解決策として財政調整を急ぐことのないよう慎重に検討していただきたい。

また、懸案となっている、いわゆる整理資源等の国庫の一般会計負担問題について格段のお配慮をお願いいたします。

更にまた、私ども恩給・共済年金受給者の既得権及び期待権が侵害されることのないようお願いするとともに、施策に受給者の意向が十分反映できるように恩給・共済年金に関する各種審議会、諮問機関等に退職者団体の代表者を加えるようお願いいたします。

第二 昭和五十八年度国家予算等の編成に關連してご配慮を賜りたいものについて
一 恩給・共済年金については実質価値が維持できるよう自動スライド方式等を確立していただきたい。

恩給・共済年金の改善については、昭和四十八年度から前年度の公務員給与改善率その他の事情を総合勘案して改定されることになりましたが、その実質価値が維持できるようなスライド方式を確立し、受給者に対して生活上の安定感を与えていただくようお願いいたします。

二 恩給・共済年金の改定時期は、すべて四月一日実施とし、現職公務員の給与改定時期から一年遅れとなっているので、これを同時期とするよう逐次繰り上げていただきたい。

昭和五十二年以降においては、既裁定年金の引上げは、四月一日に行われておりますが、その他の項目については一部実施時期の遅れるものもありますので、これらを一本化していただくようお願いいたします。また公務員給与の改定から一年

遅れとなっているものをこれと同時期にしていただきたく、一挙に実施が困難ならば計画的に繰り上げ、数年後には同時期にしていただくようお願いいたします。

三 恩給算定の基礎となる仮定俸給を総点検して格差を是正するほか、恩給と共済年金との格差及び退職年次による格差の一層の是正を図っていただきたい。

恩給算定の基礎となる仮定俸給の号俸間の開差は必ずしも等級数的開差でなく、極めてアンバランスとなっているので、これを斉合するほか、恩給に通年方式を導入することにより恩給と共済年金との算定方式の相違による格差を是正し、及び同一または類似職位における退職年次による格差を一層是正するようお願いいたします。

四 扶助料または遺族年金の算定基準額は、恩給・共済年金の八〇％に改善していただきたい。

現在、五〇％ですが、夫婦の一方が死亡した場合、生活費が半減するとは考えられず、今回寡婦加算の増額がありましたが、なお積極的なご配慮をしていただくようお願いいたします。

五 恩給・共済年金の最低保障額を引上げていただきたい。
逐年改善を見られますが、引き続き引上げていただくようお願いいたします。

六 恩給・共済年金受給者に対する老齢福祉年金の併給制限を撤廃していただきたい。
老齢福祉年金は、国民年金制度発足の際、昭和三十六年四月一日現在で満五〇歳以上の者が七〇歳になったら支給される無拠出年金ですが、公的年金の支給額

が年四八万円を超えていたときには福祉年金は全額又は一部停止になりますが、その額は極めて少ないので、是非とも併給をお願いします。

七 高年齢者の年金に対する課税については、現行の租税特別措置法による時限措置である老齢者の年金特別控除を恒久立法とし、昭和五十八年以降については七八万円を一〇〇万円以上としていただきたい。

八 恩給・共済年金は一般の所得とは性質が異なっており、特に高年齢者については唯一の生活の糧でありますので、これに対しては非課税とするか、課税上の優遇措置を現在よりも更に進めていただくようお願いいたします。

共済年金制度の確保に関する陳情書

昭和五十七年四月三十日

電電公社退職者団体連合会
会長 行 廣 清 美

公社総裁・郵政大臣 殿

共済年金制度の確保に関する陳情書

日本電信電話公社は、創立以来三十年にわたる役員一同の献身的な経営努力と、世界最高水準に到達した電気通信技術に支えられ社会、経済の発展に寄与して来られましたことは、ご同慶に堪ない次第でございます。

退職者の福祉につきましては、事業の発展とともに、共済組合制度の充実と資産の有効利用に努められると同時に共済年金制度の運営に努めましていろいろのご配慮を賜わり厚くお礼申し上げます。

最近、一部の共済年金について財政窮迫の事態が発生したため、関係ご当局において財政調整のみの見地から、国家公務員共済年金

及び公共企業体共済年金の統合が論議され、更に公的年金制度の統合が検討されている旨仄聞いたしております。

共済年金は、退職者にとりまして極めて重要な問題でありますので、年金受給に関する既得権に関しては勿論、その期待権についても不利とならないよう、格段のご配慮を賜わりたく、会員一同の総意に基づき謹んでお願い申し上げます。

昭和五七年度公社に対する要望

昭和五十七年四月二二日

電電公社退職者団体連合会
会長 行 廣 清 美

日本電信電話公社

厚生局長 澤田 道夫 殿

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

公社退職者の生活の安定、福祉の向上等につきましては五四年九月二〇日、五五年四月二〇日および五六年四月一〇日付書面をもって委細お願い申し上げたところであり、公社ご当局のご配慮により逐年改善され、一同感謝いたしておりますが、なおご配慮を賜わりたい事項がございますので、昭和五七年度においては、特に下記事項について何分のご高配を賜わりますようお願いを代表してお願い申し上げます。

記

敬具

一 生存者叙勲の範囲の拡大

生存者叙勲につきましては、毎年深いご配慮をいただき、感謝いたしておりますが、なお公社外の受賞者との間に勲等と人員について格差があるやに思われますので、何分のご高配をお願いいたします。

また、一類と二類の中間者の叙勲及び二類の上申基準の緩和についても考慮していただくようお願いいたします。

二 死亡者叙勲の早期伝達
早期に伝達していただけるようお願いいたします。

三 医療関係の共済組任意継続期間の延長
医療関係の終身利用については、昨年来お願いしているところでございますが、なお、当面の問題として共済組任意継続期間については、期限切れの者を含めて本人の希望するかぎりせめて七〇才まで延伸できるようお願いいたします。

四 医療機関の利用範囲の拡大

(1) 退職者の定期健康診断については、一昨年度からご高配をいただき感謝いたしておりますが、更に成人病検査についても退職者に及ぼしていただくようお願いいたします。

(2) 地方における公社診療機関の診療種類(特に歯科)の増加をお願いいたします。

(3) 退職者が国民健康保険証又は健康保険証をもって公社医療施設の利用ができるようご配慮をお願いいたします。

五 共済組合特約保養所の利用

現在特約保養所の利用は共済組合員とその家族に限られておりますがこれを直営保養所と同様に退職者も利用できるようお願いいたします。

六 会館・クラブ等に退職者のための談話室の付設

共済会において各支部ごとに集会・談話室を設置することになっている由ですが、未だ設置予定されていない支部がある旨仄聞しますので設置の促進方ご配慮下さるようお願いいたします。

うお願いいたします。
また、支部の所在しない県庁所在地につきましても設置方ご検討下さるようお願いいたします。

七 共済年金相談センターの設置

最近共済年金に関する照会・相談等は制度の改正を含め著しく増加し、関係者は多忙を極めており、また、受給者の問合せも本人の具体的受給金額にまで及んでおりますので、これに対応するため、年金相談センターの設置方ご検討下さるようお願いいたします。

八 医療福祉施設の拡大

現在、医療福祉施設としては、伊豆通信病院内に白寿荘がありますが、退職者の高齢化に伴い、入所希望者が多いので、この施設の拡充についてご検討下さるようお願いいたします。

余 栄

ご逝去されました左記の方々に対し多年電気通信事業に貢献されましたご功績により叙位叙勲が行われました。

正七位勲八等瑞宝章(五六・八・四)

故 森田 免喜 殿

故 石田 芳二 殿

正七位勲五等瑞宝章(五六・一一・一六)

故 西本 勝利 殿

従六位勲五等瑞宝章(五六・一二・一七)

故 新 芳太郎 殿

正七位勲六等瑞宝章(五七・一・二二)

故 島崎 友文 殿

共済会だより (内)

◎OB大学(教養科)が開講!!

いつの間にかやら葉桜の頃となり、堀端の柳のみどりが映える四月十六日番町公民館において、一般教養科を開講しました。

六車支部長開講あいさつのおと、法龍寺住職(番町公民館々長)栗田伸美先生が「心のもち方と人生」と題して仏教の立場から終生父母の恩に報ゆる日常生活が重要であると、詩人坂村先生の「現代父母恩重経」の解説を中心に、天地の恵み、父母の恩愛を忘れてはならないと説かれた。

また、座禅の原則(調身、調息、調心)についてもふれられ、静かに我が人生を振り返ってみる機会に恵まれました。

「死のうと思う気持はないが、生きる力がなくなった時、お寺へ行って仏だんの前で明日を想う生きる力が出てくるまで座る。」

第二回目は、五月二十一日愛媛新聞社編集局長上田正明先生をお迎えして「日本はなぜ非難されるか」という非常に興味深い講演をされました。

アメリカでは日本食がもてはやされ日本人の寿命、経済大国への成長は食生活にあるのではないかと、その反面経済、防衛問題等問で日米摩擦は今後も強まることはあっても弱まることはないと言及して、その原因は、経済大国にのし上り自国の繁栄のみ追及する閉鎖的な国民性であり、防衛、貿易問題等々のタダ乗りは「田舎の青年がタダ喰いするよるな体質である」と批判され日本に対する風当りは日増しに強まっている。諸外国からは「ソ連と日本がいないと世界は住みよくなる」

とまで言われている。

嫌われ孤立化している経済大国日本は、確かに優秀な国民であるが、世界の中で仲よく成長繁栄してゆくためには、閉鎖性を改め、国際的な和を重んじコトバ(日本語)の障害はあるが、フェアなつき合いで日本の伝統文化を正しく伝えることが必要であると述べ、この和解は夫婦喧嘩のようなもので、お互に理解し合うことであろうと結ばれた。

第三回目を以降の予定は次のとおりです。

回	月 日	場 所	講 座 内 容
3	6・18(金)	富郷溪谷	天然記念植物を尋ねて
4	9・17(金)	松山市周辺	史跡探訪
5	10・22(金)	鹿野川ダム	見学(散策)
6	11・19(金)	番町公民館	情報化社会の問題点
7	12・17(金)	〃	老人と健康

◎趣味の作品展を開催

今年も「とまがき荘」を利用し開催します。

一 開催期間 10・7から10・20まで

二 作品種目 絵画、書、写真、手芸、盆栽

三 その他 作品の搬入、搬出は出品者で措置して下さい。

出品者には粗品を差しあげます。

◎高松通信病院の一般開放決まる

五七年七月一日から実施

従来、通信病院は、郵政、電電公社の職域病院として運営されてきましたが、一般開放(保険診療機関の指定を受けること)により健保や国保の加入者にも門戸が開放され診療できることになりました。

従って、共済会の「医療共済」で利用するよりも、一般開放後は、健保、国保で利用し

た方が本人負担が少なくすみます。詳しいことは「ともがき」21号に掲載していますのでご覧ください。

現在、医療共済に加入されている方には、更新時に個々にお知らせしますので、ご検討のうえ継続の可否をきめていただくことにしています。

なお、松山通信病院の一般開放は、今のところ未定ですが、決定次第お知らせします。

史跡文化の里めぐり記

共済会のお世話で、第二回「史跡文化の里めぐり」が三月十四日に実施された。

第一回は昨年宇和島の史跡めぐりであったが、今回は松山市内の史跡とあって新顔の参加も多く、久闊を叙す風景があちこちで見受けられた。天気晴朗、午前九時貸切りバス二台に分乗出発、井門町の重要文化財に指定されている豊島家に十五分程で着いた。

その規模、構造の詳細は割愛するが、その昔大庄屋であっただけに豪壮な邸宅で、主家の根屋は茅葺でこれをいま葺き替えるには数千万円を要するとか、また廁が一坪程の畳敷きであったのも珍しかった。つぎは同じく重要文化財である東方町の渡部家を訪ねた。これも広大な構えであることは同様であったが特に気付いたのは、非常に備えドンドン返しの抜け部屋があったことで、幾棟もの米倉がならび豪華な生活振りが想像できた。

三たび乗車、二十分道後の子規記念博物館に着く。館内には道後、松山の歴史や子規に関する資料が数多く展示され、子規と漱石が共同生活をした愚陀佛庵も復元されており予定の時間内ではゆっくりの観覧は無理な感じであった。

つぎは久万の台伊予かすり会館で、ここで共済会が好意の昼食をしたが、可愛い器の冷し素麺が濁いた喉に特においしかった。食後館内を見学、織姫ならぬ年配の女性が予め染められた横糸での模様合せをしていたが、相当の熟練を要する作業で、緋の柄ゆきもいまふうに変っているのに驚いた。

午後一時最後の箇所四国霊場五十二番札所太山寺へむかう。白装束姿の四国巡礼者にまじり各自思い思いの願いをこめて参拝をすませて帰路につき、午後三時松山市駅前で散会したが、旧交を温めた楽しい史跡めぐりであった。この度はご夫婦の参加も多く坂道や階段で手を引き労わり合うほほましい光景も処々に見られた。種々親身にお世話下さった共済会の方々に深甚の謝意を表しつつ筆を擱きます。

(比翼 力)

訃報

次の方が亡くなられました。謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈り致します。

氏名	死亡月日	行年	所属
土居 蕃殿	57.5.19	84	高松
岡本 一男殿	57.5.24	59	高松
福井 政一殿	57.5.28	82	高松
川本 熊太郎殿	57.5.29	88	高松
片岡 勇吉殿	57.5.29	82	高松
田中 義隆殿	57.5.6	84	高松
広瀬 芳太郎殿	57.5.17	82	高松
片岡 明殿	57.5.23	82	高松
大岡 数義殿	57.5.24	82	高松
宮地 平吉殿	57.5.30	66	高松
大塚 茂栄殿	57.5.4	67	高松
町田 春弥殿	57.5.5	76	高松
大平 一夫殿	57.5.19	73	高松

昭和五七年度電電OB 春季軟式庭球大会

今年度初めての電電OB春季テニス大会を好天氣に恵まれた四月十日(土)松山市堀之内市営コートにおいて、新会員を含めて熱戦を繰り広げた。

試合のあと全員で懇親会を開き、今年度の計画等話し合い次回以降のお互いの健闘を誓って和やかに解散した。

試合成績は次のとおり

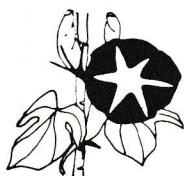
- 優勝 田内長兵衛 木村 利一組
- 二位 吉村 英雄 溝田 実組
- 三位 小松 重幸 内藤 福子組
- 四位 福山 岩雄 明野 統組
- 敢斗賞 明野 統

なお新会員を歓迎しますので、お気軽に申し込んで下さい。

連絡先電話(松山)31-0280(木村利一)

随筆

旧中仙道を歩く



猪谷 嘉夫(高松)

旧中仙道は江戸を基点に碓井峠、和田峠、木曾谷を通り、岐阜県を経て滋賀県の草津で旧東海道に合流して京に入る街道である。中仙道を歩くとは言ふものの、その一部に過ぎない木曾街道を少しばかり歩くだけのもの。三月下旬の連休に高松を夜船で発ち、新大

阪を初釜の新幹線、名古屋で特急信濃三号に乗換え上松下車。前日来の雨の中を寝覚の床へ行く。何だか寝覚めが悪いような気持ちで引返し、汽車で数駅先の藪原へ。ここから旧街道の鳥居峠を越えて奈良井まで歩く。鳥居峠（標高一一九〇米）は中仙道の難所中の難所。雨は一向に止まない。峠道は緩やかだが頂上近くは急峻に加えて、凍結した残雪が雨にぬれて、ロープに縋りつても何度か滑りながら頂上へ。峠の西側に落ちる水は木曾川となつて伊勢湾に、東側の水は流れ流れて信濃川に合流して日本海に注ぐ。下りは案内外で夕方奈良井の宿に着き直ちに民宿に入る。

翌日は晴天。宿場の面影を残す町並みを歩く。奈良井は町並保存の指定をうけていないが、観光客に迎合的な南部の妻籠や馬籠より素朴で自然的のように入る。汽車で木曾福島へ。木曾谷最大の町だが先年の大火で近代化しておる。山手に残る島崎藤村ゆかりの旧家、四大関所の一つという福島関所跡、木曾義仲の墓、旧代官邸跡を見物。遙か南方の中空に白雪に覆われた木曾駒ヶ岳が雄姿を見せておる。午後の特急で帰途につく。

大 目 小 目

今 西 重 信（高知）

大目は利くが小目が利かない状態、今のところ治療の方法はなく眼鏡での矯正も駄目と五番目に診察を受けたA医師の言葉であった。

それ迄にあちこちと御医者さんを廻ったが洗眼、点眼、投薬と処理してくれるのみで一向に効き目がなく、ハッキリ診断してくれると聞いて診て貰った結果がこれではお先真暗だと思つた。

大目小目と言う表現は始めて聞かされたが大目が利くと言つても何時でも霞がかかっているようでハッキリしないし、小目に到つては老眼鏡に拡大鏡を併用しても人様の二倍三倍の時間と労力が必要である。

昨年開業した高知医大附属病院に出向き、ここならば治療の道も拓けているかも知れないと精密検査を受けたが「カメラのフィルムに当る網膜に異常がある網膜変成症と言うもので手術は困難である」との事で大学病院なら若しかしたら手術で治るかも、との期待は外れてもう駄目だと可成のショックを受けた。今もなお全く諦めきつている訳ではなく日常生活にも支障はあるが、焦々としても仕方がない、全盲の人のことを考えればまだ大目が少しは利いて風渡る新樹の緑、五月の空を泳ぐ鯉も霞み乍らも見えるのだと挫ける心に鞭打つこの頃である。

先年レジャー八分に信仰二分位でお四国順拝をした時、習い覚えた真言動行を朝夕欠かさずせめて心の安らぎにと念願しているが「おのれを空しうして一心に唱えたとまづればみほとけの光明に照らされて三妄の霧おのづからはれ浄心の玉明らかにして真如の月まどかならん（光明信言より）」とあるもの己を空しく出来ず、もろもろの煩惱にまどわされるばかりである。

しかし、残された人生は僅かだ。大目を見開いて自然の移ろいを肌で感じとり心豊かに過したいと思つている。

我が家のペット

宇 川 政 彦（高松）

昨年五月中頃の午後のひととき、リビングで家内と雑談をしていたときのことであつた。

換気扇の風洞から丸で呼び掛けるような小鳥の鳴き声が執ように続いた。庭先へ出てみると、ブロック塀の屋根に目の覚めるような櫻文鳥がきよきよきよしている。「手乗り」だと直感した。手を出すと近付いて来るが乗ってこない。離れてから時が経って空腹だろうと米粒で誘う。これが効を奏したのか寄つて来て手にはこず家内の肩に飛び乗って来た。それ以来我が家のペットとして毎日可愛がっている次第である。

声が悪いので私は女の子だと言つたが、家内はちよこちよここと飛び回るので男の子だと言う。年の暮れ茶器棚に立てかけてあつた大封筒の影に入つて、初卵を産み落した。これでやっと女性であることが判明したのである。ネームは何となく呼び掛けた「オイオイ」をしばらく続けたが、女性と判つてからは「オイチャン」になつた。「オイチャン」と呼ぶと「チッチ」&答える。

水浴びが大好きで、庭木に放水していると決まって巣箱の水入れの前で入れ替えを請求する。日課として朝風呂に入れることが私の役目で、羽毛を洗つてやると「クウクウ」鳴いて喜ぶ。好物は洋風、甘党でケーキ、パン類が特に好きだ。夕暮れには巣箱に白布をかけ、子守唄を歌つてやると静かに寝入る。飛び入り養女「オイチャン」をこれから大事にして長生きさせてやりたい。

退職三年の雑感

大 西 元 信（香川、国分寺）

公社を退職して丸三年が過ぎました。退職と同時に現在の職場に勤めさせていだき公社建物等のお守りをさせてもらっています。在職時建物を創りまた建物等の維持管理に

ついで担当した事もありその経験を今役立たせてもらっています。退職当初発注者側から受注者側へと一夜のうちに立場が百八十度転換して大変戸迷いましたが、もともと業者にいた関係もあって頭の切り替えもすぐ出来通信部始め各局の皆様方に可愛がっていただいております。

第二の人生と言えば何か淋しいようにも思われますが、私の場合五十一才と何ヶ月で退職し同じ職場である関係でこれからは働き盛りと思っております。業界に入れば仕事の方も何彼ときびしく在職時に比較すれば倍は働いているように感じられますが、昨年来の景気の落ち込みで経営のむつかしさをいやと言う程痛感させられています。

電々公社も第一次五ヶ年から今日まで申し込めばすぐく電話、ダイヤル一つで全国どこへでもつながる電話の二大目標が達成され社会経済や国民の福祉に貢献していますが、二十一世紀にかけてのテレマティクの時代表を迎えて、電気通信網のデジタル化やファクシミリ通信網の開発、料金体系と利用制度の確立等大変な問題をかかえています。きびしい行政改革の中の成功を期待したいものです。私もOBとなった今日直接的には公社の仕事にタッチは出来ませんが、縁の下の力持ちとして今後も建物等の保守に全力をつくして、間接ながらもまだまだお役に立ちたいと思っております。

囲碁余談

中平茂 一(徳島)

碁の歴史は二千五百年以上といわれているがそれだけに別名も亦数多くある。黒白、烏鶯、爛柯、橘中の樂、方円、坐隱、河洛、手

談、等である。黒白や烏鶯は字のとうり説明の要はないが後の部分は解説なしには一寸わかりにくい。方円は碁盤の四角と碁石の円形が天体を象徴しているという。ナスカ高原の砂絵を見ている程の感じかも知れない。座隱は居ながらにして隠遁する。つまり囲碁三味の仙境であり、当年度年退職者の遊びとでもいうところであろうか。河洛は河図洛書の略であり、数を図像化したもので図示するのに黒石、白石を用いたからといわれる、手談は手で話をする。すなわち、碁を打てば心が通じる(手で談ずることが出来る)意らしい。爛柯は木樵が山に入って童子が碁を打っているのを見ているうちに持った斧の柄が腐っていたという中国の民話に由来し、橘中の樂も同じく民話からきたものらしい。ちなみに現在の「囲碁クラブ」の前身名は「爛柯」であった。また関西棋院徳島支部(徳島電話局内)の機関誌も同じく「爛柯」の名を称していた。

碁盤は樺が高級品とされているが、原木が少くなり一般には桂盤が普及し、ノープルと呼ばれるアラスカ材や台檜も最近が多くなっている。木には柾目と板目があり柾目が表裏に出ているのが最高級であり、板目では木の中心部が表に出ているもの(木裏)裏に出ているもの(木表)がこれに次ぐといわれる。黒石は那智石が殆んどであり無尽蔵であるが日向の白石(蛤)は二十年位前から激減しており最近ではメキシコ産の蛤が普及しており通称「メキ」と呼ばれている。

再度皇居奉仕団に参加して

浜口徳幸(松山)

本年度の愛媛県皇居奉仕団は四月二十日に

出発して翌二十一日から二十四日までの四日間皇居と東宮御所に二日間づつの清掃作業に従事しました。このことは既に本紙の四月号(第三八号)で団長の大森さんから詳細に発表されているところです。(但し首題に昭和五十六年とあるのは誤りですが)。

私は今年で二回目です。昨年初めて参加しまして国民の一員として天皇家に対する此細な奉仕作業だったのに、作業途中天皇、皇后両陛下や皇太子、同妃殿下から直かに労らいのお言葉を賜りました。今の世代の若い人には理解されないでしょうが昔人間の私は恐懼感激をしましたし、しみじみ日本に生れたことの喜びも一入でした。

だからこの感動を今一度との願いから、また奉仕後にある慰安旅行(昨年は北海道観光)も楽しいので参加しましたものです。

今年も奉仕作業にも慰安旅行にも特に良い天候に恵まれました。奉仕作業は軽いものですが、宮城内も東宮御所も広いので作業場への往復など毎日五、六軒は歩かねばなりませんから疲れが多少ありますが、良い運動にもなります。

慰安旅行は楽しい一言につきましました。小さな島国の日本も廻ってみると広いなと思います。至るところに美しい山あり、川あり、壮快な海岸線的美観、それに史跡の里あり、由緒ある名刹もあります。また道路がとても良くなっていますのでバスで走るのも楽で爽快です。最後の観光地佐渡ヶ島は初めてのところでしたが民謡で知っている相川音頭や佐渡おけさなど日本の荒波を眺め、そして唄と踊りの観光は最後の慰安にととても良い保養になりました。

私は身体の元気である限り更に奉仕団参加

を続けたいと思っています。

パリのマロニエ

板 東 秀 一 (徳島)

やがて古希も近い老軀(く)とあっては青春のロマンを求める気持ちなどさらさら無いが、大正初期生れの同輩の諸士にはその昔、
「パリのマロニエ銀座の柳……」というはやり歌をよく口ずさまれたことであろう。阿波の寒村の一隅に住む少年であった私はその歌を通じて、パリや東京の風景をまるでしんきろうのように思い浮かべたものである。そうした幼いころの潜在意識が今もお残っているのだから、なにか郷愁のようなものにひかれて、遠く神戸の植物園からマロニエの若木二本を取り寄せ庭のひとすみに植えつけた。枝は十字型に交互に向きを変えて出る、木の先端と枝先の若葉はちょうどかさをたんだようなかっこうで、これも規則正しく十字に、交互についている。やがてこのかさが除々に開くと一本の葉が約三十センチほどに広がる。いま二メートルほどの若木に百三十枚余りの葉をつけているのが全開になるとほとんど優雅で美麗な姿となる。しかしわずかに二本とあってはパリの風景をしのぶすべもないが、しいて想像を巡らせば貴婦人が緑色のパラソルで面を隠し、チラッと見えたひとみが見えんとほほえんでいる……と、思いたいがこれではなんとせつないパリ風景である。

このほか合歡(ネム)の木や、小学校唱歌の「ウノハナ」のうちのうらのちしゃの木に雀が三びきとま……の「チシヤノキ」なども元気に育っているが、この木々たちとの語らひもまた楽しいものである。

就 職

後 藤 稔 (大洲)

大洲農業高等学校から電話があつて、同校の警備員を勤めないかとのおさそいをもらつた。私の知らない方からの電話であつたのでどなたのご紹介でしようかとたずねると、商工会議所の方のご紹介ですとのお返事、わずかのご縁でしかなかつたお人の就職のお世話に心から感謝しながら、警備員の作業内容を聞いてみると学校の留守番のようなものであると判り早速学校へお伺いする旨お伝えした。翌日校長室で面接があり、電電公社のOBであることが校長先生に気に入られ「安心して警備をおまかせできます」と言われ事務室に下ると「来週月曜から宿直勤務をして下さい、朝全校生徒に紹介します」と採用決定のお話しをいただいた。散髪をし、服装をととのえ学校へ行くと、教頭先生が講堂へご案内下さつて、転出する先生のご挨拶のあと校長先生から全校生徒に紹介して下さいました。巡邏時計を提げ巡回していると「さよなら」と生徒さんが声をかけてくれる。私も元氣良く挨拶を返す。女生徒は特に礼儀正しい。クラブ活動の生徒は七時頃まで残っている。仕事にも馴れ、秋の農業祭、忘年会等を通じて先生方とも親しく話し合えるようになり、またたく間に六カ月が過ぎようとしている。勤務明けには天気が良いと週に一回位は好きな釣にも行くようになり、いつも温かい弁当を作ってくれる妻と二人しみじみ安らげるこの頃である。妻は家のまわりに花を蒔き野菜畑をつくつて春の訪れを待っている。大洲地方はまだ寒く、時には通勤の単車のヘルメットを戴が打つこともあるが、仕事を持つこ

との有難さを噛みしめながら、一日も休むことなく頑張っています。

土居藩さんを偶ぶ

森 谷 岩太郎 (高松)

その日の土居さんは何かいことでもあつたらしく終始笑顔で、いつになく多弁でよもやまの話のあと、「本省のお偉ら方で寝食を共にした中で一番印象深い方は現在東海大学総長の松前重義先生です」と言われたので、「その松前先生は、本省の工務局長時代、時の軍政総理東条英樹と軍用線徴用問題でしばしば激突し、遂には最低の兵隊松前二等兵として赤紙召集され、南方最前線に追いやられた」と聞いたままの話をすると、土居さんは非常に好奇の眼指して傾きながら、「そうかそれで納得できた。しかし松前先生は軍務には服さず、いつも背広であちこち走り廻っておられましたよ、何と面白い話だねー」。

また、昨夏君から聞いた有田外相が日比谷公会堂で演説中に暴漢に殴り倒された話、「その時君は最前列で暴漢の隣り席に居て、「見え見ものをしたよ」と大変よろこんでいたね。千人に一人の敵も持たない土居さんが無闇に刺激に富んだ話に夢中になるのも印象的であつた。二人で二合の酒があかないのに、基友達との約束があるからと言つてあつた後大きく跨いで乗った自転車小さく見えた後姿が喉の裏に残っています。

その翌々日あなたの訃報を聞かされ茫然自失信じられなかったが、事実はどうしようもなく、も早や土居藩さんは幽明境を異にしてしまったのです。三月二十三日のことです。

翌二十四日、奥様やお嬢さんから最後の模様を承わると、楽な大往生であつたと涙の物

語りでした。人命の果敢なき断腸の思いでした。

ただただ御仏土居藩さんのご冥福を心からお祈りいたします。二十五日の告別式には、電電、郵政の方々が大勢ご参列下さって、御仏もさぞ喜ばれたことと思います。 合掌

お盆のはなし

溝 淵 宗 俊 (高知)

お盆と言うのは孟蘭盆の略称だそうです。昔、お釈迦様の弟子に「目連」と言う偉い坊様がありました。ある時神通力で亡き母の行方をみますと、何と母は餓鬼道に落ちて苦しんで居りました。目連は驚いて、鉢に飯を盛って母にささげるのですがそれを食べようとすると、忽ち飯は火ともえて食べることが出来ません。目連は大変悲しんで、お釈迦様にどうしたら母を救う事が出来ましょうかと教えを乞うと、お釈迦様は、「八月十五日に出来るだけ沢山の修行僧に供養すればお前の母のみでなく多くの縁者が苦しみから救われる」と仰せられた。

目連はその教えの通り供養すると、果して母だけではなく餓鬼道に落ちている人達もその苦しみから救う事が出来たと言います。

この話の中に出てくる餓鬼道とは、名譽慾、権力慾、財慾、愛慾等々色々な慾のとりこになって、世の中の正しいあり方を見る事が出来ない気の毒な人の姿だと言われています。餓鬼道の苦しみから救われるには「修行僧に供養せよ」と言う事は、修行僧の教えに敬意を払えと言う事だと思われる。

お盆に目連が自分の修行が出来上るとまず第一に、亡き父母の菩提をと思ったように、お墓へ参り、仏壇を飾って先祖の魂に供養を

ささげる事はもとより大切であります。同時に自分達が「慾のとりこになっていないか」「真実の教えに謙虚に自分の向上につとめているか」を深く反省してみることも、お盆を迎える大事な心構えだと思えます。梅雨が明ければまたお盆がやってくる。

表紙のことは

蔵王山麓の春 莊野 丹秀 (内海) 蔵王エコーラインに沿って展開する景色は素晴らしい。

水芭蕉、牡丹櫻の花ざかり。白樺林のかなたに残雪の蔵王がそびえ立っていた。五月の北国は春たけなわである。(東北旅行のスケッチから)

川 柳

福 田 秋風郎 (松山)

逆転の土俵で見せた心技体 母逝つていよいよ故郷遙かなり ゴルフまですることはない庭を掃き 怪獣を抱えて子供病むベツド 交通事故と思ひ直せば出る笑い

俳 句

高知やまもも句会

礁の上の細田ばかりの畦を塗る 大西 瓶子
三人が一ツ傘なり花の雨 今田 直水
散りかかる悲恋の塚の遅桜 安村 淑
咲き満ちし桜の中の薬王寺 溝淵乃文字
涅槃図の海風通ふ堂暗し 別役 幸子
雨上り水玉のせて木々芽立つ 野村 俊
子離れのおぼつかなしやとさみづき 柴田マサ子
雨に濡れ命短かき桜かな 池内 寿子

投 稿 規 定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
- 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
- 三 随筆、随想 六〇〇字以内

原稿の取扱についてはお任せねがいます。原稿締切 八月一〇日

編 集 後 記

▽五七年度の共済年金は、一カ月おくらせて五月実施、改定後の假定俸給年額四一九万二四〇〇円以上は、来年三月まで増額分の三分の一カット、という形で平均五%引上げになりました。

▽本号はお知らせする記事が多くて、折角のご投稿を一部登載できなく次号にまわさせてもらいました。ご了承下さい。(渡部)

電友会四国連合会会報 第三九号

昭和五十七年七月一日発行

編集発行 電友会四国連合会 事務局

松山市一番町四丁目(二七九〇) 四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六一二〇二三 印刷 四国電話印刷株式会社